



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

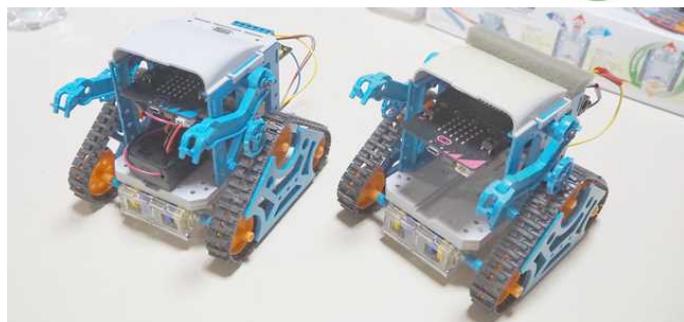
このごろの… なんとなくのにお

ホームページメニューから[なんにお通信]をクリックすると通信・第1号(2005年2月)から第76号まで、なんにおの歩みを振り返ることができます。第60号前後は新型コロナ感染対策として学校休業のまま新学期に入った時期でした。

2020年10月発行の第61号には「猛暑の夏」とありました。コロナ蔓延時の夏も暑かった。さて、この夏はどう書かれるのかと心配な日々が続くなか、梅雨明け宣言もあり、今週から小中学校は夏休みに入りました。居場所は8月10日～18日にお休みをいただく以外、平日はいつものように開いています。年度が替わり継続登録や新たな利用登録、そして多数の問い合わせや相談がありました。夏休み中も相談・見学希望などお気軽に電話やメールでお知らせください。

ふだんの居場所は集まったメンバーによって楽器の練習会、コーラス会、ゲーム大会など(スイッチ用「マイクラフト」新規導入!)、日によっては希望に応じて問題集を開いたり、保管庫にある希塩酸、セキス、フェノールフタレインなどを持ち出してミニ実験をやったり。一人ひとりが無理のないように過ごせる雰囲気づくりを心掛けています。

「学びサポート」やイベントの会場としてお世話になっている日光市民活動支援センターから「理科好きの小学生がいるので…」という話がありましたので、小学生との少人数の雑談会を企画してみました。「話題にしたいこと」を聞いてもらった中に「重力」がありました。すべての物質が質量に応じて持っている万有引力。その現われが重力と言って良いのか、さてどんな話にしようかと考えているうち、昔読んだ雑誌にあった『宇宙空間に1キログラムの2個の物体が1メートル離れて浮いていくとする。物体は万有引力によって互いに引き合い接近していく。最初の状態から衝突するまでの時間は?』という問題を思い出しました。宇宙に石ころでも砂粒でも浮かんでいれば引き合いくっついて、長い時間が経つうちに大きな天体になります。すこし難しいけれどそんな話も良いかなと思いま



「マイクロビット」でラジコンできるロボットが2台に増えました。ぜひ操作体験を

した。さてこの問題、むかし計算をやった記憶はあるけれど、ノートを探すのも面倒と「ChatGPT3.5」に質問を入力してみました。あっという間に、答え「5479秒」と表示。「さすがAI」と感心しつつ、途中の計算をよく見ると何か変。物理の話になるので端折りますが、万有引力の処理と、平方根の計算が間違っている。小中学レベルの算数でしくじるとするのはAIにありがちの現象だそうで、子どもたちとの雑談会ではこのAIの間違いも紹介。次回また別のテーマで。

学校の授業現場を長年取材してきた教育ジャーナリストによるブックレット[1]に刺激を受けました。ひとり1台のデジタル端末が従来の授業スタイルを大きく変え、子どもたちと教員による「草の根からの学校改革」の基盤となっているという現場からのレポートです。「居場所」ではWiFi環境などハード面の整備は進みましたが、PCやデジタル端末を学びに生かすための環境づくりと実践はこれから。「なんとなくのにおのDX」を試行錯誤しながら進めていきたいと思います。(手塚)

[1] 教育DXと変わり始めた学校(佐藤明彦 岩波ブックレット 2024/04)

[2] 本欄の題字は「消しゴムはんこ」が趣味ですという方の作品です。

子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市今市316-4）

日時：毎月 第2月曜日（午前10時～12時）

8月10日(日)～18日(日) 居場所は夏休みになります。

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。
(Tel : 090-3227-7079)

目次

このごろの なんとなくのにお

通常総会（第20回）報告

川むしたんけん（足尾・神子内川）

活動報告

こんな本はいかが・66

1
2
3
3
4

居場所のひとこま

居場所のあちこちに、Fさん制作による精密立体折り紙が置いてあります。パターンを印刷した型紙や折り方マニュアルも持参いただきました。興味のあるかた、ぜひ手に取ってご覧ください。1月にセンターで行った「折り紙で作る多面体」続編も準備中。



第20回 通常総会 報告

『学校に通うことが困難になった子を支援したい。不登校というみかけの状態にこだわらず、登校を強制されることなく、おだやかに過ごせる場をつくりたい。多様な生き方を応援したい』との思いを共有するメンバーが2004年に集まり、2005年に「子どもの居場所」が始まりました。本会ができて20年目、第20回通常総会を「子どもの居場所」(日光市今市316-4)にて開催しました。

5月13日(土)午後1時30分、司会の丸本香さんが開会を宣し、議長には白井佐智子さんが選任されました。

正会員数50名、出席正会員34名(うち表決委任者22名)により定足数「正会員総数の2分の1以上」を満たすことを確認し、議事が始まりました。事業報告および新年度の事業計画について、

第1号議案 2023年度事業報告の承認

第2号議案 2023年度収支決算の承認・監査報告

第3号議案 2024年度事業計画案

第4号議案 2024年度活動予算案

が出席者全員の拍手で承認されました。

理事および監事は前年度より継続し、現在役員の任期は2025年6月30日までとなります。

以下は総会で承認された2023年度事業の概要です。

(1) 居場所の提供と学びの場の運営

日光市委託事業「日光市子どもの居場所・学びの場」の11年目が終了しました。2023年度も前年度同様に学校長期休業中の平日も居場所を開所し、スタッフ2名の体制で実施しました。コロナやインフルエンザ感染症についてはマスク着用、風邪の症状のチェックなど基本的な対策を行いながら、無事に1年を過ごすことができました。

開所日は237日、居場所登録者数は13名(小学生5名、中学生8名)および高校生以上5名でした。延べ236名(小中学生:169人、高校生以上:67人)の居場所利用がありました。登録者は前年より増加しましたが、来所者の延べ人数は減少しました。利用者が自分のペースで学校、支援センター、放課後等デイ、などでの活動を決め、居場所を選択のひとつと考え行動している様子が見えがえまます。多様化する子どもたちの要望に対応する仕組みづくりが課題です。

(2) 子どもたち一人ひとりに対応した、

新たなカリキュラムや教材の開発

不登校傾向、発達障がいを持つ子を対象とした「学びサポート」は毎週金曜日午後7時から9時まで日光市民活動支援センターで実施し、延べ54人が参加しました。継続参加は中学生2名、期間中に若干名の見学者がありました。本人の希望教科について学習支援を行いました。

(3) インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/> を公開しています。定期的な更新により、居場所の紹介、活動の紹介などの発信を行っています。電子会議用のカメラおよびマイクを導入し、面接シミュレーションなどを試みま

したが、現実の場面での運用には至りませんでした。

(4) 教育についての相談や情報提供活動

不登校相談、教育についての悩み相談などに随時対応しました。相談件数は30件、訪問者は84名でした。相談事業の周知をはかるため、日光市広報に掲載を依頼しました。3月には宇都宮・アミークスで行われた「こどもワカモノフェスタ2023」、今市公民館で行われた「日光ボランティア・市民活動フェスタ」に参加しました。通信「なんとなくのひろば」を3か月間隔で4回発行、各号250部印刷し、会員および日光市内の小中学校に配布しました。

(5) 学校外で育つ青少年や障がいのある人の

自立に関する相談および就労を支援する活動

感染の心配から施設見学は難しく、実施を見送りました。理事によるベリー会への参加、「ひきこもり相談センター・かがやき」、「NPOだいじょうぶ」など地域支援団体との連携を取りました。

(6) 自然環境の中での学びを作り出し、

子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動

「今市の水を守る市民の会」との共催行事、「川むしたんけん隊」を室瀬行川橋付近の行川で実施しました。環境測定班の放射能測定は随時継続しました。

(7) 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

「茶話会」は毎月第2月曜日、午前10時からお昼まで「子どもの居場所」で開きました。気やかな雰囲気が集まり、子育ての悩みを話し合う時間となっています。

(8) 第二種社会福祉事業の相談支援事業の経営

さくらそうは2014年5月から計画相談を開始し、まる10年が経とうとしています。2023年度は相談員1名で90名ほどの計画作成・モニタリング・担当者会議を実施しました。計画作成・モニタリングの実施内訳は成人104件、児童53件合計157件(前年比:18件減)でした。担当者会議は必要時に行っていますが、就労継続支援B型からA型へのステップアップ希望の方と4ヶ月連続で行ったことが印象に残ります。担当人数は休止事業所から6名、新規の方5名合計11名増え、亡くなった方1名・サービスの利用が無くなった方10名・相談員交代2名・進学や就労に進まれた方7名・転居1名で合計21名担当が終わり、10名減となりました。今年度は小学生の頃から関わってきた児童が放課後等デイサービスの利用(高校在学まで利用可)を終了して、就労や進学に進まれた方が多く、今後の活躍が楽しみです。本年度は相談支援専門員二人体制で、ご本人のより良い生活や希望が叶えられるように努めていきたいと思えます。(N)

2014年5月から、市役所一階社会福祉課「障がい者相談支援センター」に栗原が向出して、丸10年になります。コロナ禍以降、家計・経済的な相談が他の項目を圧倒して増えています。中でも、兄弟間や親子間での問題についての相談が多くなってきたなあという印象を持ちます。同じ家のなかで生活しながらLINEで会話をしている。意志疎通がうまくいかないという苛立ちを抱えている様子など、年々増える相談件数に日々苦闘しています。(K)

☆ 活動日誌

- 4月23日(火) 通信「なんとなくのひろば」第75号 発行
 4月28日(日) ベリー会(21周年・記念講演会・講師:有園正俊さん)
 5月7日(火) 理事会(第119回)
 5月11日(土) 通常総会(第20回) 子どもの居場所・午後1時30分より
 5月13日(月) 茶話会(第135回)
 5月25日(土) 川むしたんけん隊 足尾・神子内川
 5月28日(日) ベリー会(グループ相談会)
 6月2日(日) 矢板・木質バイオマス発電を考える会(環境研究班)
 6月7日(金) 事業報告書(2023年度)提出(日光市役所・地域振興課)
 6月10日(月) 茶話会(第136回)
 6月18日(火) 日光市教育委員会 新教育長(関孝和さん)との面談
 6月19日(水) 居場所スタッフミーティング
 6月23日(日) デンマークの福祉政策(居場所にてWeb視聴)
 6月30日(日) ベリー会(第1回 学習講演会)
 7月2日(火) 理事会(第120回)
 7月8日(月) 茶話会(第137回)

さくらそう関連 連絡会など

2024年度 日光市相談支援専門員連絡会

- 4月24日(水) 今年度報酬改定について 相談員読み合わせ
 5月29日(水) 今年度報酬改定について 市役所回答

2024年度 日光市障がい者自立支援協議会

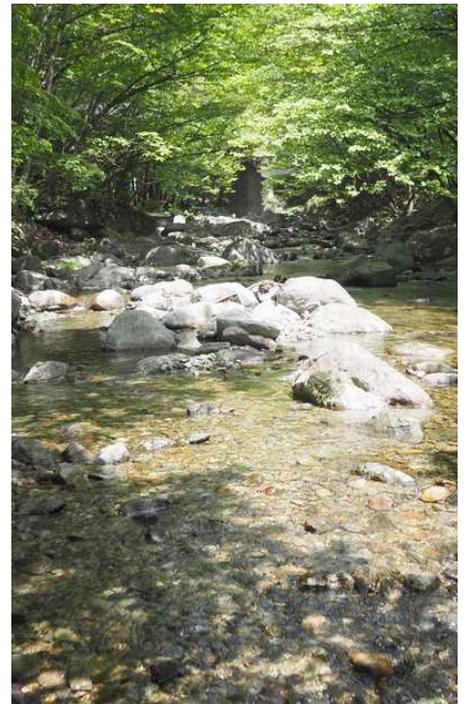
- 5月30日(木) 相談支援実務者会議 実行計画
 6月13日(木) 第3回 ケース・事例検討会議

2024年度 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会

- 6月28日(金) 第1回 県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会日光市役所
 自己紹介・グループワーク

その他: 6月23日(日) デンマークの福祉政策(居場所にてWeb視聴)

6月30日(日) 箱庭療法入門 ~初めて箱庭に触れる方のために~



右・神子内川(川むし採取地点)
 上・川岸入り口近く、水準点表示板がありました

川むしたんけん・足尾の神子内(みこうち)川

昨秋に続き二度目の「川むしたんけん」を5月25日(土)に行いました。日足トンネルの先からいくつかの沢が合流すると神子内川になります。その最初の橋である神子内川橋の下に縦勢9人で入り、川むしを探しました。両岸からそよいでくる青葉の風にやや肌寒さも感じましたが、天気は晴れ、気温20℃・水温11.5℃の川に入り、水質階級を調べました。

水質階級とは環境省の定めた指標生物である水生昆虫の数や種類から、その場所の水質を知るというものです。短時間でしたが、いろいろ見つかりました。見つかった指標生物の水生昆虫の名前と数です。数値は見つかった個体数です。

水質階級 I きれいな水に棲む指標生物

- ヒラタカゲロウ類 多数、ナミウズムシ(プラナリア) 5、
 ヘビトンボ 5、カワゲラ類 4、ナガレトビケラ類 4、ブユ 1

水質階級 II ~ III ややきれいな水

- ヒゲナガカワトビケラ 1

水質階級 III ~ IV 汚い水 見つかりませんでした。

※ 指標生物からこの場所の水質は「きれいな水」とわかりました
 それ以外の生き物:

- 水生昆虫では、マダラカゲロウ、フタマタマダラカゲロウ、
 コカゲロウ類、カクツツトビケラ
 その他
 羽化直後のトンボ成虫→サナエトンボの一種
 サナエトンボの幼虫
 ボルボックス(植物プランクトン) 9
 カジカの幼魚 2、ハルゼミの鳴き声



神子内川周辺の山は広葉樹が目立ちます。その枯葉が水に沈むと微生物や川の生きもの達の餌になり、そして彼らが水を浄化してくれます。白皿と小さいネットで参加者皆さんが丁寧に見つけてくれた川むし達。中でもナミウズムシやヘビトンボ、ヒラタカゲロウ類が多かったのは源流域の特徴の一つでしょう。カジカの幼魚やボルボックスが見つかったことも、今回のトピックでした。これは前回も参加したT君が見つけて出してくれたものでたいへん助かりました。長靴に冷たい水が入ってしまったけれど、泣かないでしっかり川むしを見つけてくれたお友達。参加してくださった皆さんのおかげでたくさんの生きものたちを見つけることができました。深く感謝いたします。

日光市は栃木県の四分の一を占める広さです。そこにはいろいろなタイプの川が流れ、季節や場所によっても生きものの種類は変わります。いつも同じ生きものが見つかるとは限りません。足を川に向け、川と生きものとのつながりを追っていくのは面白いものです。次回はこの川で皆さんと会えるでしょうか。ぜひご参加ください。

塚崎庸子(今市の水を守る市民の会
 栃木県生物多様性アドバイザー)



なんとなくのひろば

〒321-1261 栃木県日光市今市378

電話 090-3227-7079 / email: info@nantonakuno.net

ホームページ <http://www.nantonakuno.net/>



私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？ その 66

「デンマークの福祉政策」を紹介する本

先月6月23日に、「デンマークの福祉政策」についてオンラインの講演会になんにわ会員4名で参加しました。

デンマークは、「ゆりかごから墓場まで」の言葉の通り、教育、保育、高齢者介護、医療に関して、市民のニーズをカバーする社会制度を持っています。そのためにはもちろん、所得の半分くらいは税金として納め、社会福祉への分配が行われます。国民は自分たちの生活にお金が分配されることを実感できるので、納税することに、日本のような不満はなさそうです。

「子どもは社会の構成員」という考え方がしっかり根付いていて、子どもは家族の所有物ではなく、重要な社会の構成員であるということ。子どもの権利が最優先され、家庭の問題に市町村が介入する速度が速いということでした。保育園に入った子どもが一番初めに教わることは、嫌なことにはNOという意思表示をすることだそうです。子どもの人権をしっかり守ろうとする国の姿勢が素晴らしいと思いました。ここで2冊の本を紹介します。

◎『デンマーク式生涯学習社会のしくみ』坂口 緑、他 ミツイパブリッシング 2022年

第1章 デンマークの学校教育、第2章 若者の移行支援と多層的な学びの場、第3章 若者に影響力を(政治教育)、第4章 デンマークの成人教育制度、第5章 デンマークの公共図書館プログラム
5人の専門家が生涯学習について解説しています。

◎『デンマークにみる 普段着のデモクラシー』

小島ブンゴード孝子、他 かもがわ出版 2023年

2人のデンマーク在住の女性の方が書いた本です。2人ともデンマーク人の方と結婚し、子育てをし、生活の中の「普段のデモクラシー」を肌で感じて、この本にまとめました。子育てをする中で、日本の違いを様々感じ、「こうやってデモクラシーは育つんだ」と実感しているようでした。機会があったら是非読んでほしいと思います。
(白井)

会員について

正会員：50
賛助会員：13
団体会員：3

入会金なし

年会費(一口)
正会員 3,000円
賛助会員
個人 5,000円,
団体 10,000円



私たちの活動は会費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

モニターに向かって書いたり考えたりに疲れ、ふと内田百閒を読みたくなる時がある。たいていは「阿房列車」や「言行録」などを開き数十ページ「ふむふむ」と読む。気分転換に良い■先月本棚を眺めていて「ちくま文庫・内田百閒集成8・鷹作吾輩は猫である」に目が行った。夏目漱石の「吾輩は猫であり」にはそれほど面白くもないパロディを多くの作家が書いている。この「鷹作」は本屋で衝動買いしたけれど、「百閒お前もか」と読む気がしなくなったのだろう。ともかく「集成6・間抜けの實在に関する文献」の隣で長年眠っていたその「鷹作」を見つけて読み始めたら、げらげら笑いながら一気に読んでしまった■苦沙弥先生ならぬ五沙弥先生の家にさまざまな人物が訪れ、住み着いたオス猫があれこれ批評するという設定は「猫」の継承である。漱石の著書と見せかけたニセ作品であると書名で宣言してはいるが、時折訪れる友人や門下生と苦沙弥先生の会話が楽しい高等遊民の世界とは相異なり、内田百閒の暗黒面が発揮された怪作だと思う■五沙弥先生、『貧乏人が金を持ってても貧乏人は貧乏人だ』という大胆な理屈を振り回したり、客に「うまいだろう」と饅頭を食わせながら『人類は麺類の「のどごし」を好む』との説をもとに独自の推論を展開したりする。これを読んで麺類が食えなくなる人が出るのは困るのでこの本は上欄のお勧め本に入ることにはない。(T)